

バージョン	① 1697年 ペロー童話 Le Petit Chaperon rouge	② 1870年 口承民話 Conte de la mère-grand	③ 1874年 口承民話 La Fille et le loup	④ 1885年 口承民話 Conte tourangeau	⑤ 1812年 グリム童話 (仏語訳より)
語られた地域	フランス	ブルゴーニュ地方ニヴェルネ地域	オーヴェルニュ地方	トゥーレーヌ地方	バイエルン地方(ドイツ)
主人公の少女	赤ずきんを被った美しい少女。 あだ名で「petit Chaperon rouge (赤ずきんちゃん)」と呼ばれる	特徴はない。 petite fille (少女) とだけ呼ばれる	ほかの家で2頭の牛の世話をしている少女	Jeannetteという名の少女	誰からも好かれる少女。ピロードの赤い頭巾をかぶっているため「赤ずきん (Chaperon rouge)」と呼ばれる。
目的地	病気の祖母の家 * 母親に言われて病気見舞いに行く	祖母の家 * 母に持って行くように言われて出かける	母親のいる自宅 * 仕事を終えたので帰宅する	病気の祖母の家 * 病気だと噂に聞いたので行くことにした	病気の祖母の家 * 母親に言われて元気づけに持って行く
みやげ物	●ガレット (galette) 1個 ●バターの小瓶	●菓子パン (époigne) 1個 ●ミルク1瓶	●パン (pompette) 1個 ●小さなチーズ1個 (雇い主が報酬としてくれた)	なし	●菓子 (gâteau) 1切れ ●ワイン1本
悪者は誰か?	狼	狼男	狼	豚を連れだ醜い男	狼
目的地に行く道の選び方	狼は老婆の家に行く道を少女に示し、自分は別の道から家に向かう。 少女の道は長い方だったが、花を摘んだりしたのでよけいに時間がかかった。	狼は、針の道と留針 (ピン) の道のどちらを行くかと少女に聞く。少女は針の道を通ると答えるので、狼は留針の道から向かう。 少女は道で針を拾って遊びながら行く。	少女は留針 (ピン) の道を通ると狼に答え、狼は針の道から向かうと答える。	道に迷った少女は醜い男に道を聞き、左に行くようにと教えられた。 男は、簡単に行ける右の道から行き、早く到着する。	狼は少女と一緒に歩き出し、少女に自然をめでるように言って道草をさせる。
悪者がしたこと	老婆を殺した狼は、3日以上食べていなかったために空腹だったので、全部食べてしまう。 祖母になりすましてベッドに横たわる。	祖母を殺して、肉と血を保存する。	祖母を殺して半分食べ、残りは火にかけ、ベッドにもぐりこむ。 少女が到着すると、病気で寝ているのだと説明する。 少女が持ってきたものを少し食べる。	少女の祖母を殺して肉を食べ、血は保存してベッドにもぐりこむ。	祖母を殺して食べる。
少女は人食いをさせられるか?	食べない (少女が到着したときに死体はない)	狼にすすめられて、少女は肉とワインを口にすると雌猫が、それは祖母の肉と血だと非難する。	狼は、肉が火にかけてあり、ワインもあるから食べるようにと少女にすすめる。 少女が口にすると、小鳥が鳴いて、それは母親の肉と血だと非難する。	少女は食べるものはないかと聞き、男からすすめられるまま、血で料理を作る。 すると暖炉の煙突から天使のような声で祖母の血だという非難が聞こえる。男は小鳥がさえずっているだけだと答えるが、少女は「もう空腹ではない」と言って料理をやめる。	食べない (少女が到着したときに死体はない)
少女は床に入るか?	少女は自分から洋服を脱いでベッドに入る。	狼は少女に服を脱いでベッドに入れと言う。少女は一つ一つ脱ぎながらどこに置くかを聞くと、狼はもう必要ないのだから暖炉の火にくべろと言う。	少女が食べ終わると、狼は寒いので一緒にベッドに入ってびったり寄り添えと誘い、少女は従う。	男は少女にベッドに入れとすすめる。	ベッドには入らないで少女は話しかける。
少女の疑い	祖母の姿が奇妙なことを、少女は5回言う。	少女の6回目の指摘で、口が大きいのはお前を食べるためだと狼が答えたとき、少女は尿意を催したので外に出ると言い張る。	母親姿が奇妙だと4回繰り返す。	4回目に口が大きいのはよく食べるためだと男が言ったとき、少女は尿意を催したので外に出たと言う。心配ならば、足に紐をつければ良いと少女は狼に提案する。	少女は4回目に口が大きいことを指摘し、狼はお前を食べるためだと答える。
結末	歯が大きいのはお前を食べるためだと、答えた狼は少女を食べてしまう。 話しの最後に子どもたちへの教訓がある。	狼は少女に紐を付けて外にだすが、外に出た少女はほどいて逃げる。 気づいた狼は追いかけるが、少女が家に入ったときに追いついたので遅かった。	狼は、歯はお前を食べるためだと言い、少女を食べてしまう。	外に出た少女は逃げる。それに気がついた男は豚に跨って追跡する。 川で洗濯女に会ったので少女は見たかと尋ねる。川にシーツを広げて渡してあげたと答えるので、男は同じようにしると命令。女はシーツを川に広げるが、男と豚が乗ると沈んでしまった。	少女も食べた狼は寝込んでしまう。大きなイビキを聞いて不審に思った狩人が寝室に入って狼を発見し、狼の腹を裂いて少女と老婆を助け出す。少女は狼の腹に石を詰め込み、目覚めた狼が逃げようとするのが、倒れて死んでしまう。 老婆は土産ものを食べる。少女は母親の言葉に逆らって道草をしないと反省する。
誰が死んだか?	少女、彼女の祖母	少女の祖母	少女、彼女の母親	少女の祖母、醜い男、豚	オオカミ